



福島医発第953号（総）

平成24年7月4日

各 医 師 会 長 殿

福 岡 県 医 師 会

会長 松田 峻一良

（公 印 省 略）

「武見記念賞」並びに「武見奨励賞」受賞候補者の募集について

標記の件につきまして、公益信託武見記念生存科学研究基金より別添のとおり案内が参りました。

「武見記念賞」は、生存科学とその関連分野において顕著な業績をあげられた概ね60才以上の研究者または実践者を対象とし、その受賞候補者は「推薦方式」により募集しております。

また、「武見奨励賞」は、生存科学とその関連分野において顕著な業績をあげつつある研究者または実践者を対象とし、その受賞候補者は「自薦方式」により募集しております。

つきましては、別添の推薦要項、応募要項にて貴会会員への周知方いただきますとともに、推薦並びに応募がございましたら、8月20日（月）までに本会総務課宛、別添の推薦書又は受賞申請書をご提出くださいますようお願い致します。本会にて取りまとめ応募いたします。

平成24年6月吉日

関係各位

公益信託武見記念生存科学研究基金

運営委員長 高田 昂

受託者 三井住友信託銀行株式会社

リテール受託業務部長 木村 栄

「武見記念賞」並びに「武見奨励賞」受賞候補者の募集について

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、当基金では、生存科学の研究や実践活動を普及し発展させることを目的に、「武見記念賞」及び「生存科学研究武見奨励賞」を贈呈する制度を設けております。

「武見記念賞」は、生存科学とその関連分野において顕著な業績をあげられた概ね60才以上の研究者または実践者を対象とし、その受賞候補者は「推薦方式」により募集いたしております。

また、「生存科学研究武見奨励賞」は、生存科学とその関連分野において顕著な業績をあげつつある研究者または実践者を対象とし、その受賞候補者は「自薦方式」により募集いたしております。

昨年は東日本大震災にともない幅広く地域医療の重要性が見直され、生存科学の意義がより深く認められる時期となり、本年も引続き「生存科学研究武見奨励賞」は、地域および職域におけるコミュニティを舞台とした保健医療・福祉の包括的な研究あるいは実践に優れた活動をされた方々を募集いたしたく存じます。

つきましては、本状添付の『「武見記念賞」受賞候補者推薦要項』をご参照のうえ受賞候補者をご推薦いただくか、または、『「武見奨励賞」受賞者応募要項』をご参照のうえご応募いただきたくご案内申し上げます。因みに、これまでに受賞された方々は別紙一覧表の通りでございます。なお、「生存科学」の概念については、別添の“生存科学とは”（武見理論の要約）をご参照下さい。まずはご案内まで。

敬 具

添付書類

1. 生存科学とは（武見理論の要約）
2. 「武見記念賞」受賞候補者推薦要項、推薦書
3. 「武見奨励賞」受賞者応募要項、申請書
4. 受賞者一覧表

なお、上記添付書類は、受託者三井住友信託銀行ホームページの公益信託の募集案内一覧のページからダウンロード可能です。

生存科学とは

1. はじめに

およそ「科学」とは、医学や自然科学だけでなく社会科学なども含めて——分野により、その目的は異なるが——認識された現象の抽象化を軸として進められるという点で共通項をもつ。そして、この抽象化は、「概念」の創出という作業によっておこなわれるが、概念自体が次第により高次の概念に包摂されていくという過程を辿ることになる。こうして、諸概念の内容ないし適用範囲も明確にされることになる。なお、こうした概念の形成にあたっては、演繹、帰納の論理が駆使されるし、さらに既存の概念の枠外の新しい現象が出現したような場合には、新現象に対応できる新概念の誕生までは、「あたかも既存の概念に含まれているかのように」取り扱う論理、すなわちフィクションの論理が大きな役割を果たすことになるといえようか（概念自体が、一度現実から遊離してまわりみちをするフィクションの性格をもつことも多いが、両者の関係については、ここでは触れない。猶フィクションは虚言ではない。）

ともあれ、科学を上述のように定義してよいとすれば、武見先生の生存科学論は、ゆるぎない科学としての方向付けに満たされており、しのぎを削っている多くの科学論の中での代表作というべきものである。それは、決して単なる観念論ではない。未完成ではあるが、人類の文化発展の起動力としての役割を果たすことのできる科学論である。したがってまた、できるだけ多くの人の理解と協力の促進が必要となる。そのために、以下、武見理論の特色を要約して示しておきたい。

2. 武見理論の要約

「生存科学」は、故武見太郎氏が医学の科学的基盤を模索するなかで到達した、包括的、学際的、総合的な学問体系概念モデルである。とはいえ、完結した概念モデルというよりは、むしろ人間について考えるあらゆる人びとにつねに問いかけ挑戦し続ける概念である。武見氏は、医学とは何か、医学は何をなすべきかという問に答えるために、その根幹にある基盤科学として生存の理法に基づく生存科学を構想され、本来は広義の医学概念であるライフサイエンスとして提唱されたものである。

しかし生存科学は医学概念にとどまらない。人類の生存秩序を、個人の生存の場から、集団としての地球的規模における全人類の生存の場まで包括的にとらえようとする学問である。人類の生存秩序には、生物学的秩序、社会経済秩序、精神生活秩序、さらには政治的な秩序があり、それらすべての秩序の中に生物的要素が大きく存在すると考えるのである。

ひとり個人の生存のみならず、同時代の地球上のすべての人びと、そして世代を超えて、人類のより健全な、より人間らしい生存を目標として、既存の科学、それも自然科学のみならず社会科学、人文科学、さらには哲学・宗教・芸術までもを含めた全人間的知識の見直しと統合を科学的に行おうとする試みでもあった。そして、その目的に沿った新しい科学技術やテクノロジーの開発までを包括しようとする概念である。

したがって、従来の縦割りの学問分野を寄せ集めて束ねるのではなく、哲学から分子生物学に至る人文・社会科学、自然科学を包摂して、ミクロからマクロに至る各レベルにおいて、それぞれの分野の理論思考を相互に統合させつつ体系化をはかろうとする、より本来的な包括概念として生存科学は構想された。

武見氏は、あらゆるレベルでの人間の生存を考慮に入れて、本来の意味での福祉を本質的に人類のために考えることが生存科学と呼ばれるに値すると考えられた。生きることは人類のすべての営みの出発点である。誰が、なぜ、どのように、さらに、いかに生存すべきなのか、という問題提起から始まり、個別の生命現象としてとらえるとともに、地球規模で人びとが共存していくために、何を考え、何をすべきなのかを英知を集めるべきである。そのために、生存科学が開発途上国から高度の先進国までを含めて、現状を把握し、未来の方向を作っていく基礎的な学問として成立し、世界的な発展を図る場としてハーバード大学に武見国際保健講座を開設された。

武見氏は、生存科学の現実的モデルとして国内では先進的かつ包括的な地域医療モデルを提示された。さらに地球規模のエコロジー概念を前提とした倫理的アプローチによる健康資源の配分、さらにバイオエシックスやバイオインシュアランスという概念も創出され、現代のわれわれに問いかけ続けている。

3. 期待

以上で、武見「生存科学」論の解説を終わる。先生の提唱されたこの概念の充実、発展をひたすら願っている基金としては、すぐれた生存科学論が相次いで出現することを期待する。

以上

公益信託武見記念生存科学研究基金

平成24年度（第23回）「武見記念賞」受賞候補者推薦要項

1. 趣 旨

故武見太郎先生が創造した生存科学の普及・発展を図ることを目的に生存科学とその関連分野で顕著な業績をあげた研究者または実践者を顕彰してその業績を称える。

2. 賞の種類

「武見記念賞」

生存科学とその関連分野で、顕著な業績をあげた研究者または実践者（個人又は団体）を顕彰する賞。個人の場合受賞者は概ね60歳以上とする。

3. 受賞候補者の推薦

「武見記念賞」を受けるに相応しい方又は団体を、「推薦書」に所要事項を記載して、下記連絡先へ提出して下さい。

4. 受賞者数・賞金額

「武見記念賞」および別途公募する「生存科学研究武見奨励賞」について合計3件以内。賞金は1件50万円。副賞として記念品を贈呈。

5. 受付期間

7月2日(月曜日)から8月31日(金曜日・当日消印有効)まで。

6. 選考方法

当基金運営委員会で審査し選考する。

7. 選考結果の通知

11月末日までに、推薦者に通知する。採択された場合は、推薦者及び受賞者に通知する。なお、応募書類は採否に関係なく返却しない。

▼連絡先 〒105-8574 東京都港区芝三丁目33番1号

三井住友信託銀行株式会社 リテール受託業務部 公益信託グループ

(担当：星) TEL03-5232-8910

受付No.

平成 年 月 日

公益信託武見記念生存科学研究基金

受託者 三井住友信託銀行株式会社 御 中

(〒 -) (電話 - -)

住 所

推 薦 者

氏 名



(職 業)

「武見記念賞」受賞候補者推薦書

下記の方を受賞候補者として推薦致します。

受 賞 候 補 者	ふりがな 氏 名		男 女	生 年 月 日	19 年 月 日生まれ (歳)
	住 所 (〒 -)				
	所 属 機 関	名 称			職 名
		所在地 (〒 -)			(電話 - -)
① 受 賞 候 補 者 略 歴			年 月		
年 月			年 月		
年 月			年 月		
年 月			年 月		
② 受賞の対象となる研究または実践のテーマ					

③ 研究又は活動の具体的な内容

④ 主要論文リスト又は活動の成果の記録等

注：資料を3点以内でなるべく添付願います。

⑤ 推薦理由

受付No.

平成 年 月 日

公益信託武見記念生存科学研究基金

受託者 三井住友信託銀行株式会社 御 中

(〒 —) (電話 — —)

住 所

推 薦 者

氏 名



(職 業)

「武見記念賞」受賞候補者推薦書

下記の方を受賞候補者として推薦致します。

受賞候補者	団体の名称		代表者	
	所在地(〒 —)			
① 受賞候補団体の概要・活動の概況				
② 受賞の対象となる研究または実践のテーマ				

③ 研究又は活動の具体的な内容

④ 主要論文リスト又は活動の成果の記録等

注：資料を3点以内でなるべく添付願います。

⑤ 推薦理由

公益信託武見記念生存科学研究基金

平成24年度（第22回）「武見奨励賞」受賞者応募要項

1. 趣 旨

故武見太郎先生が創造した生存科学の普及・発展を図ることを目的に生存科学とその関連分野で顕著な業績をあげつつある研究者または実践者を顕彰してその業績を称える。

2. 賞の種類

「生存科学研究武見奨励賞」

生存科学とその関連分野で、創造的な研究や実践的な活動を行い業績をあげつつある方（個人又は団体）を顕彰する賞。

3. 受賞者数・賞金額

「生存科学研究武見奨励賞」および別途推薦により募集する「武見記念賞」について合計3件以内。賞金は1件50万円。副賞として記念品を贈呈。

4. 受付期間

7月2日（月曜日）から8月31日（金曜日・当日消印有効）まで。

5. 選考方法

当基金運営委員会で審査し選考する。

6. 選考結果の通知

11月末日までに申請者に通知する。

なお、応募書類は採否に関係なく返却はしない。

▼連絡先 〒105-8574 東京都港区芝三丁目33番1号

三井住友信託銀行株式会社 リテール受託業務部 公益信託グループ

（担当：星）Tel03-5232-8910

受付No.

平成 年 月 日

公益信託武見記念生存科学研究基金

受託者 三井住友信託銀行株式会社 御 中

申請者



「武見奨励賞」受賞申請書

下記の通り、受賞候補者として申請致します。

- ★ この申請書類に記載する事項は、助成金等の支給対象者の選考等、貴公益信託の運営に必要な範囲で、貴公益信託の受託者・運営委員・信託管理人が取得・利用すること、また、支給が決定した場合は、氏名、所属、研究テーマ等の情報が、主務官庁へ提供される他、一般に公開されることについて、同意のうえ応募します。

申請者 機 関	ふりがな 氏 名		男 女	生 年 月 日	1 9 年 月 日生 (歳)	
	住 所	(〒 -) (電話 - -)				
	所 属	名 称		職 名		
	機 関	所在地 (〒 -) (電話 - -)				
① 申請者略歴			年 月			
年 月			年 月			
年 月			年 月			
年 月			年 月			
② 受賞の対象となる研究または実践のテーマ						

③ 研究又は活動の具体的な内容

④ 主要論文リスト又は活動の成果の記録等

注：資料を3点以内でなるべく添付願います。

⑤ 申請理由

受付No.

平成 年 月 日

公益信託武見記念生存科学研究基金

受託者 三井住友信託銀行株式会社 御 中

申請者



「武見奨励賞」受賞申請書

下記の通り、受賞候補者として申請致します。

★ この申請書類に記載する事項は、助成金等の支給対象者の選考等、貴公益信託の運営に必要な範囲で、貴公益信託の受託者・運営委員・信託管理人が取得・利用すること、また、支給が決定した場合は、氏名、所属、研究テーマ等の情報が、主務官庁へ提供される他、一般に公開されることについて、同意のうえ応募します。

申請者	団体の名称			代表者	
	所在地	(〒 -) (電話 - -)			
	連絡責任者	氏名			職名
(電話 - -)					
① 申請団体の概要・活動の概況					
② 受賞の対象となる研究または実践のテーマ					

③ 研究又は活動の具体的な内容

④ 主要論文リスト又は活動の成果の記録等

注：資料を3点以内でなるべく添付願います。

⑤ 申請理由

公益信託武見記念生存科学研究基金
武 見 賞 受 賞 者 一 覧 表
 (職業は受賞時のもの)

1. 武見記念賞

	受賞者(職業)	受 賞 理 由
第1回 (昭和62年度)	H. H. Hiatt (ハーバード大学教授)	包括医療政策の研究を指導するとともに、「国際保健武見講座」を同大学に設立した
	土屋 健三郎 (産業医科大学学長)	「生存の理法」の具体化のため、衛生学を始めとする産業医学を通じ生存科学の発展に多大の貢献をした
第2回 (平成1年度)	大瀬 貴光 (元国連アフリカ経済委員会顧問)	生存科学の理念を身をもって実践した
	矢口 光子 (農村生活総合センター専務理事)	我国の農村における生活の安定と福祉の向上のために理論と実践をもって貢献した
第3回 (平成3年度)	W. W. Leontief (ニューヨーク大学教授)	産業連関分析による公害防除モデルの創始と医療モデルの構築を行い生存科学の発展に多大の貢献をした
	中尾 喜久 (自治医科大学学長)	大学の教育を通じて「地域医療」の理念を実践し「健やかな生存」という理想の実現に多大な貢献をした
第4回 (平成5年度)	国井 長次郎 (財)保健会館理事長)	寄生虫予防・家族計画等の運動を全国で実践すると共に、海外で寄生虫予防・栄養・家族計画のインテグレーション運動を展開した
第5回 (平成6年度)	若月 俊一 (佐久総合病院総長)	農村医療の拠点である佐久病院での実践を通して農村医学を振興し、地域包括医療体制を先進的に確立した
第6・7回 (平成7・8年度)	該当者なし	
第8回 (平成9年度)	江草 安彦 (社会福祉法人旭川荘理事長)	旭川荘及び川崎医療福祉大学での実践を通じて障害者高齢者の医療福祉の向上と理念の実現に貢献した

	受賞者（職業）	受 賞 理 由
第 9 回 (平成10年度)	該 当 者 な し	
第 1 0 回 (平成11年度)	唄 孝 一 (北里大学客員教授)	「医療における法と倫理」の在り方の研究実績及び 医学部・病院における実践的課題への貢献
第 1 1 回 (平成12年度)	宮 崎 亮 (王滝村診療所所長)	アフリカ・アジアの最貧地方に身を投じ、20年余に 亘り献身的現地医療を行った実践力と純粋さ。
第 1 2 回 (平成13年度)	澤口 彰子 (東京女子医科大学 ・副学長)	法医病理学における窒息論の今日的展開と、東京都監 察及び警視庁嘱託医としての社会医学的応用実践
第 1 3 回 (平成14年度)	該 当 者 な し	
第 1 4 回 (平成15年度)	小林 登 (国立小児病院名誉院 長)	子どもをめぐる諸問題の解決にあたり生存科学の実践と してこれを行ない、子ども学の体系づけを試みるなど育 児、保育、教育の問題解決に多大の貢献をした
同	武見記念特別賞 リンカーン・チェン (ハーバード大学教授)	初代ハーバード大学武見記念講座教授として数多くの 武見フェローを育て、又途上国の健康開発にも尽力し、 世界の貧困対策に大きく貢献した
同	武見記念特別賞 マイケル・ライシュ (ハーバード大学教授)	ハーバード大学武見記念講座を極めて有効に維持運営し 百数十名の武見フェローを世界に送り出し、生存科学の普 及に貢献すると共に、我国の医療行政に関する研究におい ても多大の貢献をした
第15回 (平成16年度)	該 当 者 な し	
第 1 6 回 (平成17年度)	該 当 者 な し	
第 1 7 回 (平成18年度)	該 当 者 な し	
第 1 8 回 (平成19年度)	該 当 者 な し	

	受賞者（職業）	受賞理由
第19回 (平成20年度)	該当者なし	
第20回 (平成21年度)	寺澤 捷年 (千葉大学大学院教授)	日本伝統医学の承継と発展及び和漢診療学の形成に多大な貢献をした。
第21回 (平成22年度)	福井 光壽 (医療法人社団珠光会)	長年にわたる医師会活動を通じて、「医療は医学の社会的適用である」との理念に基づき包括的且つ学際的手法を具体的に実践し、地域医療の充実・発展に多大な貢献をした
第22回 (平成23年度)	前沢 政次 (地域医療教育研究所 代表理事)	日本プライマリ・ケア連合学会による東日本大震災支援プロジェクトの創設により被災地域の保健・医療・介護の各分野における復興支援活動に多大な貢献をした。

2. 武見奨励賞

	受賞者（職業）	受賞理由
第1回 (昭和63年度)	推薦者なし	
第2回 (平成2年度)	花田 恭 (厚生省人口問題研究所)	人口統計学を駆使して死亡水準低下の社会経済的要因分析と社会経済への影響の計測を行った
	◎グループ研究 土方 正夫 (早稲田大学社会学部) 齊木 崇人 (神戸芸術工科大学環境デザイン) 掛谷 誠 (京都大学文化人類学)	筑波大学大学院環境科学研究科で、「流域文化の成立と定住様式の変遷に関する文明生態学的研究」に参加し、地域の生存に係る諸問題への研究と実践に努力され、生存科学研究所の研究に参加して実践的研究を継続している
第3回 (平成4年度)	津谷 喜一郎 (東京医科歯科大学難治疾患研究所)	伝統医学の国際的普及・発展活動に貢献すると共に、難治性疾患を含む各種疾患に対する臨床試験の方法論の開発に努力をしている
	大林 雅之 (産業医科大学医学部)	「生存科学としてのバイオエシックス」に関する科学哲学的研究で業績を挙げている
第4回 (平成6年度)	該当者なし	
第5回 (平成7年度)	ト部 文麿 (ト部医院院長)	地域における精神衛生保健の推進及びバイオエシックスの研究と普及に多大な貢献をしている
	真柳 誠 (北里研究所医史学研究部)	東アジアに於ける伝統医学と医療文化の伝播と交流に関する調査研究及びこれらの文献の復刻と普及に多大な貢献をしている
第6回 (平成8年度)	推薦者なし	
第7回 (平成9年度)	該当者なし	

	受賞者（職業）	受賞理由
第 8 回 (平成10年度)	藤野昭宏 (産業医科大学 助教授)	産業医学、特に産業生態学と生存科学の関係についての研究に注力
第 9 回 (平成11年度)	該当者なし	
第10回 (平成12年度)	該当者なし	
第11回 (平成13年度)	該当者なし	
第12回 (平成14年度)	該当者なし	
第13回 (平成15年度)	該当者なし	
第14回 (平成16年度)	岡原 猛 (堺市医師会理事)	堺市学童集団下痢症（O157）における溶血性尿毒症症候群発症グループのフォローアップ活動に対し高い評価を得る
第15回 (平成17年度)	後藤信哉 (東海大学医学部 助教授)	動脈系血栓性疾患を症状が発現する臓器にかかわらずアテローム血栓症として包括的に対応する研究が評価された
同	宮本敏伸 (旭川医科大学医学部 助手)	今日的な社会問題である少子化の原因の一つとして男子不妊症の解明というユニークな着眼研究が評価された
第16回 (平成18年度)	小賀 徹 (京都大学大学院医学研究科 産学官連携研究員)	慢性呼吸器疾患患者に患者立脚型指標を用いて解析し、いかに充実した人生を送るかという生存の質の向上研究に貢献したことが評価された
同	松沢 厚 (東京大学大学院薬学系研究科 助手)	病原体感染に対する生体防御機構に焦点を絞り分子レベルでの分析を行い、生死の決定要因としての活性酸素の働き解明に貢献したことが評価された
		以下余白

	受賞者（職業）	受賞理由
第17回 (平成19年度)	安藤 寿康 (慶應義塾大学文学部 教授)	教育心理学を基礎とした心理学的視点から行動遺伝学と双生児研究を行い大規模双生児データベースの構築を通じて行動遺伝学研究の推進に貢献したことが評価された
同	橋爪 真弘 (長崎大学熱帯医学研究所 COE研究員)	地球温暖化がもたらす健康影響をバングラディシュで明らかにし疫学・気象学に跨る学際的な研究に貢献したことが評価された
同	山本 太郎 (外務省国際協力局 多国間 協力課 課長補佐)	新興感染症対策の新たなパラダイム「共生・共存」について提言を行い学究・行政の両面で新興感染症の対策に貢献したことが評価された
第18回 (平成20年度)	神馬 征峰 (東京大学大学院医学系研 究科 教授)	発展途上国における包括的学校保健（政策、環境改善、地域連携、保健栄養サービス、疾病予防）の推進に貢献したことが評価された。
同	元雄 良治 (金沢医科大学腫瘍内科学 教授)	臓器横断的分野としての腫瘍内科学の確立と集学的がん治療への伝統医学の応用の研究に貢献したことが評価された。
第19回 (平成21年度)	東田 千尋 (富山大学和漢医薬学総合 研究所 助教)	伝統薬物を基盤とした創薬による神経変性疾患の新しい治療戦略の研究に貢献したことが評価された。
第20回 (平成22年度)	慶應義塾大学医学部 日中医学生交流協会	単に医学に関して知見を広めるだけでなく、現地で生の文化・歴史・哲学・経済に触れ現地医学生との交流を持つことで総合的・全人間的知識を得ることを主眼において長年にわたり活動したことが評価された。
第21回 (平成23年度)	藤沼 康樹 (医療福祉生協連家庭医 療学開発センター生協浮 間診療所センター長)	長年にわたる「地域基盤型医学教育のための方略開発と実践の研究」と「プライマリ・ケア現場における臨床研究グループの構築による家庭医療学の開発」に向けた研究活動が評価された。
第21回 (平成23年度)	西浦 博 (香港大学医学部公共衛 生大学院助理教授)	数理的解析手法による感染症流行の特徴や対策の効果に関する研究により感染症対策の数理モデルの構築と検証に向けた研究活動が評価された。